

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、公共投資は、幾分減少している。設備投資は、高水準で推移している。住宅投資は、減少している。個人消費は、新型コロナウイルス感染症による下押しが一部で続いているものの、全体としては緩やかに持ち直している。生産は、回復の動きが鈍化している。雇用情勢をみると、労働需給は引き締まっている。

先行きについては、引き続き、新型コロナウイルス感染症や国際商品市況の動向等が管内の経済活動全般に及ぼす影響を注視していく。

2. 最終需要の動向

公共投資は、幾分減少している。

公共工事請負金額は、前年を上回った。

設備投資は、高水準で推移している。

主要企業の2022年度の設備投資計画は、一部に能力増強や生産性向上を目的とした戦略投資がみられ、全体では前年を上回る計画となっている。

ただし、新型コロナウイルス感染症や仕入価格の上昇など、設備投資を取り巻く環境の不確実性が引き続き高いことから、今後の投資実行状況については注視していく必要がある。

住宅投資は、減少している。

新設住宅着工戸数は、持家が前年を下回った一方、貸家が前年を上回り、全体では前年を上回った。

個人消費は、新型コロナウイルス感染症による下押しが一部で続いているものの、全体としては緩やかに持ち直している。

主要小売店の売上高は、堅調となっている。

耐久消費財をみると、自動車販売（乗用車新車登録台数）は、普通・小型乗用

車、軽乗用車ともに前年を上回り、全体としては前年を上回った。家電販売は、弱い動きとなっている。

旅行・観光関連をみると、市内ホテルの宿泊人数、主要温泉地の宿泊人数は、緩やかに持ち直している。とち帯広空港の乗降客数は、緩やかに持ち直している。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

生産は、回復の動きが鈍化している。

生乳・乳製品の生産量は、ともに前年を下回った。

製材品生産量は、前年を下回った。

雇用情勢をみると、労働需給は、引き締まっている。

有効求人倍率（常用）は、前年を上回った。

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

10月の企業倒産（負債額10百万円以上）は、発生しなかった。

4. 金融情勢

預金残高は、個人預金の増加から前年を上回っている。

貸出残高は、概ね前年並みとなっている。

貸出約定平均金利は、既往ボトムの水準で推移している。

以 上